

# 令和6年度第4回恵那市子ども・子育て会議 会議録

日 時：令和7年2月20日（木）

午後7時～午後8時30分

場 所：恵那市共同福祉会館

- 
1. 開会
  2. あいさつ
  3. 議題
    - (1) 恵那市こども計画について
      - ・パブリックコメントの結果と市の考え方について
      - ・恵那市こども計画（最終案）について
      - ・恵那市こども計画（概要版）について（参考）
    - (2) こども園等の利用定員の変更について
  4. その他
  5. 閉会

---

## ■出席委員

坪井弥栄子、石田しず江、杉山淳、西尾綾介、紀岡伸征、駒宮博男、安田和枝、立尾清二、堀尾憲慈、横井喜彦、片山三咲、渡邊みちる、可児由紀子、市川伸美、藤野貴子

## ■欠席委員

松井満数、林千秋、蜂谷明子、中川春香、佐々潤子

## 1. 開会

■事務局：これより令和6年度第4回恵那市子ども・子育て会議を開催します。

本会議の成立は、恵那市子ども・子育て会議条例の規定により過半数の出席が必要となっております。20名中出席者は15名であり、過半数以上の出席がありますので、本会議が成立していることを報告いたします。

本日も恵那市こども計画の策定委託をしております株式会社ジャパンインターナショナル総合研究所からお越しいただいておりますので、よろしくお願いたします。

会議の公開に関する要綱に基づき原則公開とし、会議録についても公表しますので、よろしくお願いたします。

それでは委員長よりごあいさつをお願いたします。

## 2. あいさつ

■委員長：皆さまこんばんは。寒い中、会議にご出席いただきありがとうございます。今年の1月の広報えなでも紹介されていましたが、昨年引き続き、住みたい田舎ベスト10において第1位に選ばれました。人口3万人～5万人の枠の中で全自治体1位ということでした。中でも子育て分野は非常に高い評価をいただいています。本会議においても活発に意見をいただきそれが反映しているのかと思います大変うれしく思います。数回にわたってご意見いただいた恵那市こども計画について最後となりますが、忌憚のないご意見をいただきますよう、よろしくお願いたします。

■事務局：では、これより委員長の進行により会議を進めていただきますので、よろしくお願いたします。

## 3. 議題

### (1) 恵那市こども計画について

### (2) こども園等の利用定員の変更について

■委員長：それでは議題に入ります。議題は2つあり、まず(1) 恵那市こども計画について事務局から説明をお願いします。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■委員長：ありがとうございました。ただいまの説明について、ご意見やご質問があればお願いたします。

■委員：資料1について、パブリックコメントの提出数が70件のうち小学生と中学生の比率はどれくらいですか。

■事務局：小学生が6件、中学生が63件です。

■委員：ほとんど中学生が回答したということですね。ありがとうございます。

■委員長：ありがとうございます。例年は保護者にパブリックコメントを出していますが、今年は小学校や中学校で取り組んでいただいたのでいくつかこどもの声があがっており、ありがたいと思います。他によろしいでしょうか。では、議題の承認を行います。議題(1) 恵那市こども計画について承認の方は拍手をお願いします。

<一同拍手>

承認多数により議事は承認されました。

■委員長：次の議題について事務局から説明をお願いします。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■委員長：ありがとうございました。ただいまの説明について、ご意見やご質問があればお願いします。

■副委員長：未満児について国からの変更があったと説明がありましたが、配置基準のことですか。具体的に教えてください。

■事務局：配置基準について、0歳児は保育教諭1人に対して3人みることができます。1歳児は保育教諭1人に対して5人、2歳児は保育教諭1人に対して6人となっています。3歳児から5歳児が変更され、3歳児は保育教諭1人に対して20人から15人となっています。4・5歳児は保育教諭1人に対して30人から25人となりました。

■副委員長：ありがとうございます。恵那市はずっと5人でしたが、国も変わったのですね。

■委員長：なんでも恵那市の方が早いので良かったです。他によろしいでしょうか。では、議題の承認を行います。議題（2）こども園等の利用定員数について承認の方は拍手をお願いします。

<一同拍手>

ありがとうございました。それでは、報告について事務局から説明をお願いします。

[ 事務局から資料に基づき説明 ]

■委員長：ありがとうございます。報告のみになりますので質疑はいただきません。本日すべての議題が終了しましたので、本年度の会議を振り返り、感想などありましたら一人ずつお願いします。

■委員：全体をみて、すごい支援制度だと思います。30年以上前に子育てをしていましたが、例を挙げると高校生の支援金が増えたと思います。ただ、30年前に比べると税金の負担が増えている中で、こどもを育てていくのは大変です。両親ともに働かなければいけない状況で、支援制度があるのはありがたいと思います。しかし、すべてを援助するのは難しいと思いますので、どこかで区切りをつけることが重要だと思います。こどもが中心というものの、大人もこどもも高齢者も大切なので、全体で捉えて支援していただけるようお願いします。

■委員：改めて市が様々なことを考えて支援していただいているということがわかりました。令和7年度子育て支援制度の4番「こども園の主食の提供」については、保護者は感謝の一言に尽きると思います。気になった点は、6番の寄り添う支援で「こども園の幼児コースの長期休業中の預かりを開始する」は保護者としてはありがたいですが、先生の負担が増えてくると思います。先生の数を増やすなど負担のケアを合わせてやっていただくことで一人ひとりに対する支援につながると思います。

■委員：子育て支援はどんどん充実していると思います。社会福祉協議会では、昨日も開催しましたが、「未来のこどもプロジェクト会議」をやっています。民間サイドの活動は互いの交流が必要ということで4回開催しました。その中の意見から、ひきこもり、不登校の関心が高く、教育委員会に実態を教えてくださいました。当事者だけでなく、保護者への支援をどうしたらよいか、民間でも何ができるかを考えて話し合っています。行政の支援事業とともに各団体がやれることをますます展開していきたいと思っています。

■委員：本計画の策定は大変だったと思います。さきほど江戸時代の年貢の話をしていただきましたが、世界を見渡すと、北欧は国民負担率が高くなっています。これからは、どこに焦点を置くかがとても重要です。今日本は上に行けば行くほどお金がかかってきます。この計画は素晴らしいと思いますが、高校あるいは大学に行く方の負担がかかるようにしていただきたいと思います。ちなみに、ドロップスは支援者がとても少なく、70代のご高齢が通学のお手伝いや2歳児と3か月の赤ちゃんを預かっていました。1,000円あがったので、皆さまのお知り合いでやりたい方がいたら教えてください。

■委員：この計画書の作成は大変だったと思います。素晴らしい計画だと思いました。この計画を振り返りながら、常に検証しながらやっていかないといけないと思いました。中学の部活動もなくなり、地域化となると、子育て支援というより地域の力がとても重要になってきます。子育てだが、大人も育つまちづくりをしないと、良い施策があっても子どもがなかなか育っていきません。大人が魅力あるまちをつくらなければいけないと子どもにとっては意味がないと感じます。大学に行くときもとてもお金がかかります。通える範囲で学費の負担がなくなるなど、近くの大学と連携することも子育てだと思います。恵那市の大人が魅力あるまちづくりができればよいと思います。ありがとうございました。

■委員：中津川市で子育てをする身としては、恵那市の子育て支援は手厚いと思いました。私の職場では、お子さんが小学校に進学するタイミングで退職をしたいという方が2～3人続いています。保育園までは延長保育などがありますが、小学校1年生だと早く帰ってきたり、宿題の採点をしないといけないなどがあり、まだ課題が多いと思いました。毎回新しい人口統計をみると、100人ずつ減っていて、1人あたり200万円ほど経済効果があるとされており、100人減ったら2億円くらいのお金をつかわれないことになります。人口を他自治体と取り合いをするのではなく、魅力のある田舎のまちであれば、そこで子育てをする方、子どもを産む方をもっと増やす方法が必要だと思いました。

■委員：山岡こども園だと、入園受付が終了してからも入園希望があり、嬉しく思っています。本会議に参加し、こども園に求められていることが多く、改めて大事な事を行っていると感じています。新しい事業を行うにあたり、幼児教育課も一生懸命やっただけで、職員の確保もやっただけだと安全な保育につながると感じますのでよろしくお願ひします。

■委員：丁寧な説明で恵那市に住んでいる自分も知らないことがたくさんありました。パブリックコメントをいただいていたのですが、中学生の意見で、こんな計画があつて嬉しいという言葉がありました。若い子たちが楽しみだと思えるような計画になっていると思いました。ふるさと学習を恵那市は大事に行っていて、社会性や郷土愛を育むためにやられています。地域を誇りに思う子どもは多いですが、離れていく子どもがいることも現状です。大人もがんばらないといけないと思います。受け身ではなく、できることをやれるような市民が多くなると良いと思いました。

■委員：123人の子どもがいます。計画について、私達が子育てをしていたころを思うと手厚いと思います。しかし、手厚くするほど今の子育ては難しいことだと思いました。本日池田町の小学校の学童の中間支援に行ってきました。5年間で県内の学童保育を見て回る事業に参加しています。いろんな地域の学童保育をみていますが、子どもたちは来て楽しいかなと思う学童保育はたくさんあります。それに比べると、恵那市の学童保育は支援のおかげで良いところにいると思います。学童保育は大変なところがまだあるので、恵那市のどこにいても同じようにサービスを

受け、楽しく過ごせるというところを目指していけると良いと思います。

■委員：2年間会議に携わり、とても勉強になりました。やっていることを保護者の方にお話しできますし、広める機会になったのでとても良かったです。今、千草保育園ではベトナムのお子さんが3人、中国のお子さんが1人います。来年度もベトナムのお子さんが2人はいってきます。言葉の壁が大きく、携帯を片手に言語を変換しています。中国のお子さんはずっと日本にいましたが、3か月間中国に帰っていたら、中国語しか話せなくなっていました。言葉は、中国語に変換して、お子さんに伝えていますが、お子さんが答えてくれていることはわかりません。ベトナムのお子さんは、離乳食が食べられず、ベトナムの調味料で作るなど工夫しています。ベトナムのお母さんから電話がありましたが、頑張っって日本語で話してくださったり、近い園に行こうかと考えている方は丁寧に手紙を書いてくれました。こちらも挨拶は「おはよう」ではなく、相手の言語で話せるようにするなど少しでも外国にルーツのある方が気持ちよく過ごせるように歩み寄ることが重要だと痛感しています。恵那市で暮らしている外国の方の支援が増えると良いと思いました。園でも言葉の壁で苦勞しているのもそういった面での支援もあると良いと思いました。

■委員：民間の園として直面しているのは、保育教諭の確保です。近隣の園に話を聞いても、生徒・保育教諭ともに減っている状況です。ありがたいことに、子育てを終えてまた働いてくれる人もいます。子育てを経験して、この仕事をまたやりたいと思って戻ってきてくださる方もいます。今後も人材確保やっていきますが、市でも学生への支援などを進めていただけるとありがたいです。

■委員：本会議に関わって、学びになりました。一つひとつ重要な施策が盛り込まれています。子ども食堂や学習支援などここで話したことが積み重なっているように感じます。この計画をどう実現していくかが心配です。1つは、こども誰でも通園制度ですが、0歳から2歳児の保育を確保するのは大事ですが、月10時間となるときちんとした対応をしないとこどもの命が危ないと思います。一時預かりの経験があるところで実施すると良いと思います。また、いじめの問題を感じています。いじめは解決の難しさや複雑な関係があります。文部科学省では、こどもの声が弱いかから問題が軽視されることがないように、双方の主張に隔たりがあることで必要な対応ができないということがないようにと書かれています。具体的にこどもたちの声が本当に届くような仕組みが大切だと思います。この計画を進めていくことが大事になってくると思います。よろしくお願いします。

■委員：長いこと会議に携わっていますが、恵那市は素晴らしいと思っています。恵那市で生まれて多治見市で暮らしており、他市の子育て会議にも参加しています。そんな中でも恵那市が一番進んでいると思います。子育て支援課の皆さまを中心にこの計画をつくった職員の皆さまに自信を持っていただきたいと思っています。

伺いたいことがございます。悲しい出来事ですが、昨日瑞浪市で踏切事故があり、恵那市の20歳の男性が亡くなられたと聞きました。どういった状況かわかりませんが、市として子育て支援をがんばってきて、親御さんも大切に育てたお子さんだと思います。恵那市の若者がどういう状況で踏切事故に至ったのかわかりませんが、もし何か公表できる情報があれば教えていただきたい。私自身3人のこどもがおり、苦勞もしましたが、高校卒業したら大学や専門学校への進学で大変お金がかかってきます。そのあたりをこれから考えていただきたいと思っています。本計画の中にもありますが、こども・若者の相談に気軽にのってあげられる場所があるということを強調し

ながら情報発信をしていただけると大変ありがたいと思います。こどもを育てるために仕事を辞めなくてはならないという選択をすることは悲しいことだと思います。育児休暇や介護休暇がとりやすいよう法律も改正されます。企業としても就業規則の改正が進められると思います。市内の事業所関係者の皆さまに育児休暇を取りやすい環境を整えていただきたいと思います。さまざまなサポートがありますが、子育て支援が恵那に住んで良かった、他市の人が恵那市に住みたいと思って移住してもらったり、恵那市に住み続けてもらうことが人口減少をとめることにつながると思います。結果がでてくる計画だと思いますので頑張ってください。

■副委員長：画期的な意見とそれに対する対応をありがとうございました。特に、1歳児5：1は他の市ではやっていなかったが、恵那市が先行してやっていただいたこともあるので、これからも市民の意見をきいていただけるとありがたいと思いました。

■委員長：私は計画を立てて終わりではなく、どう実践に移すのがこれからの課題になると思います。毎年、計画を検証していくと思いますのでまた委員になっていただける方は、検証して意見いただくとありがたいです。一人ひとり意見をもって出席いただいているので、身を結ぶ計画なると良いと思いました。

■事務局：ありがとうございました。本日は寒い中、ありがとうございました。総括させていただきますと、4月に職務につき、市長と副市長、部長が集まって市の施策について、月に2回会議をしています。少子化の施策に対して現在の子育てをしていく家庭を支援していくことによって人口が増えると考えています。国の法律や制度を待つのではなく恵那市から仕掛けてみようというところからはじめて、教育委員会や子育て支援課が行っていくわけではなく、全庁でやっていくことの意味確認がされました。本計画は、さまざまなアンケートや現場の方の意見を吸い上げ、市役所で判断するのではなく、会議のなかで立場がある方のご意見を加味しながらつくりあげるため、会議での皆さまの意見をできるだけ反映しました。さまざまなご意見を聞きながら計画を進化させていき、いらない事業など精査できればと思います。来年もこども計画の関する会議は続けていきたいと思っています。よろしくお願いします。

■事務局：この会議は市民の皆さまが集まってつくられていくのが素敵だと思いました。この会議でつくり上げたことを来年も続けていきたいと思っていますので、さらに中身のある素晴らしいことをしていきたいと思っています。長い期間でしたがありがとうございました。

■委員長：ありがとうございました。それでは進行を事務局に返します。

■事務局：ありがとうございました。委員長におかれましては、令和5年度から委員長として計画をまとめていただきました。本当にありがとうございました。では、副委員長より閉会の挨拶をお願いします。

#### 4 閉会

■副委員長：本日もありがとうございました。とても良い計画ができたと思います。今後もいろんなところから意見を聞き、直すところは直していただければと思います。ありがとうございました。

■事務局：ありがとうございました。それでは、以上を持ちまして第4回子ども・子育て会議を終了します。皆さまの任期は2年間になります。各団体からのさまざまなご意見はとても勉強になりました。皆さまの思いがこもった計画になっていますので、検証し着実に進めていきます。また、ご指導ご協力のほどよろしくお願いいたします。2年間ありがとうございました。